

令和2年1月27日

第4回審議会

資料 3-1

平成30年度（2018年度）

ハッピー(8%)ごみ^{げん}減量プラン

～第4次豊中市ごみ減量計画～

事業等報告書 確定版

令和2年（2020年）3月

豊中市 環境部 減量計画課

1. 減量目標

減量目標

ごみの焼却処理量を平成39年度（2027年度）には
平成28年度（2016年度）実績より **8%** 削減

平成28年度（2016年度）
約104千t / 年

>>>>

平成39年度（2027年度）
約95千t / 年

個別目標

家庭系ごみ1人1日当たり量（再生資源除く）

平成28年度（2016年度）
約414g / 人 / 日

>>>>

平成39年度（2027年度）
約386g / 人 / 日

事業系ごみ量（再生資源除く）

平成28年度（2016年度）
約43千t / 年

>>>>

平成39年度（2027年度）
約38千t / 年

リサイクル率

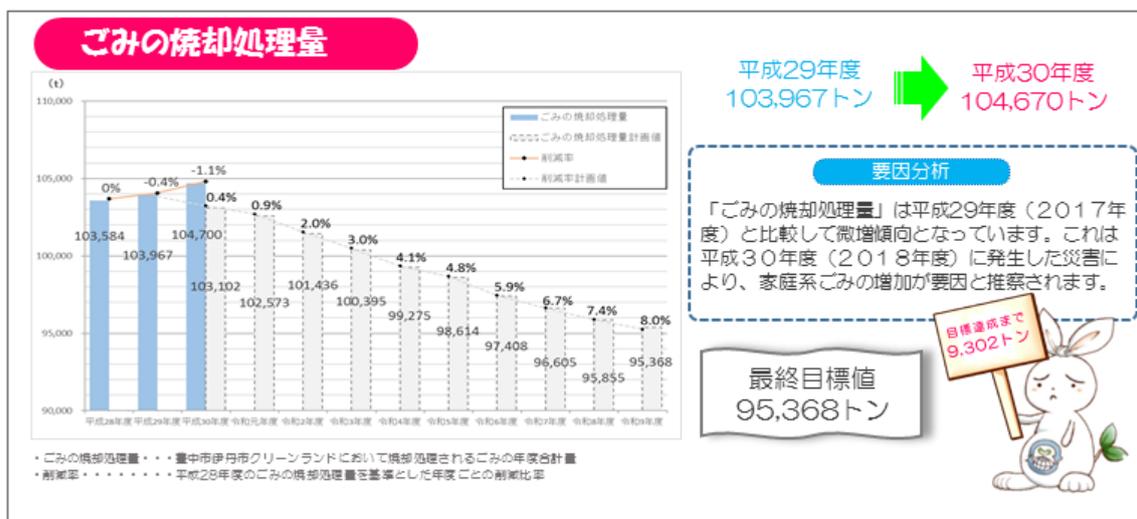
平成28年度（2016年度）
約15.7%

>>>>

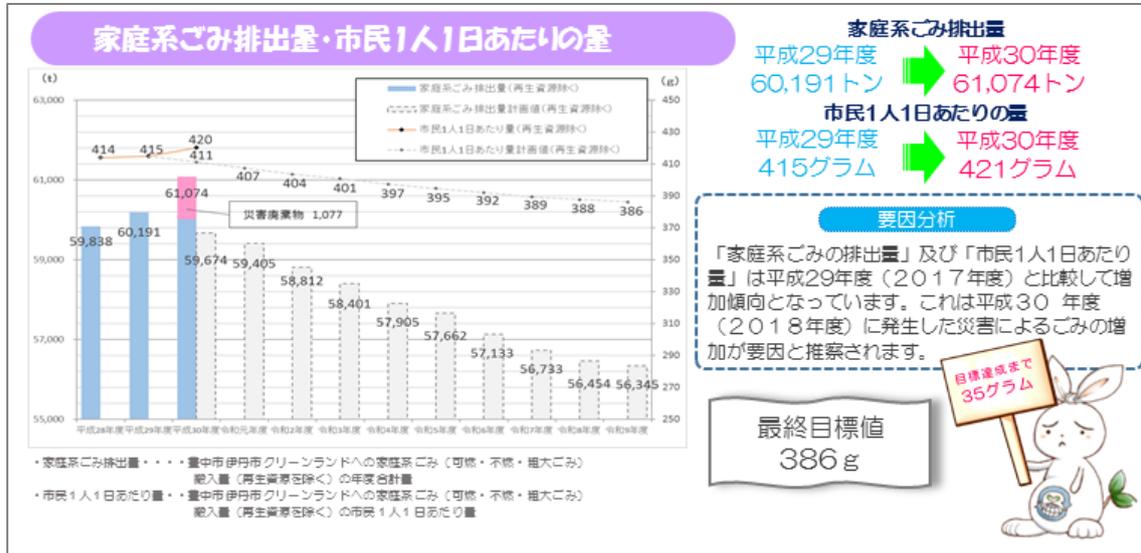
平成39年度（2027年度）
約19.3%

2. ごみ減量の進捗状況

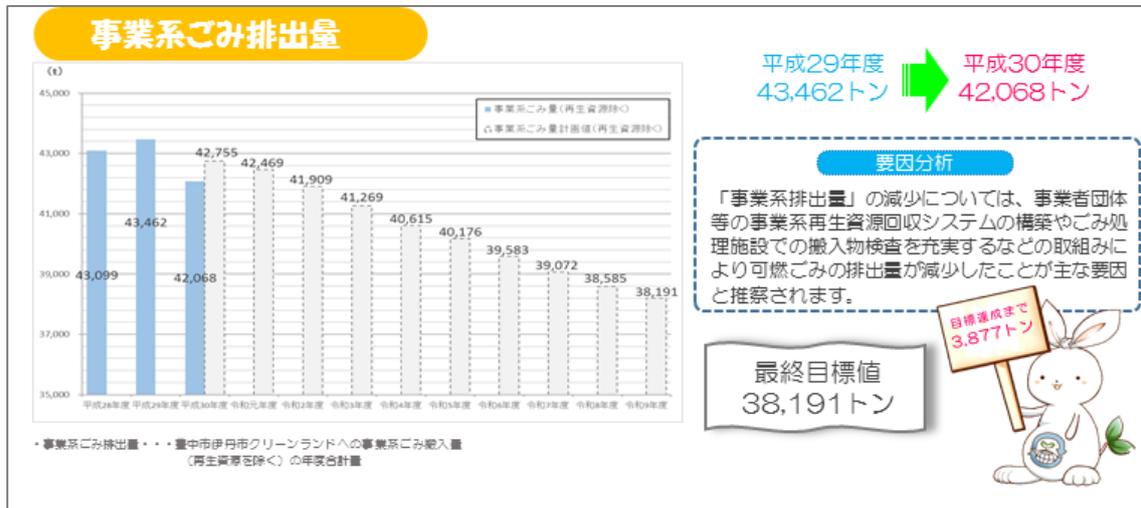
(1) ごみの焼却処理量



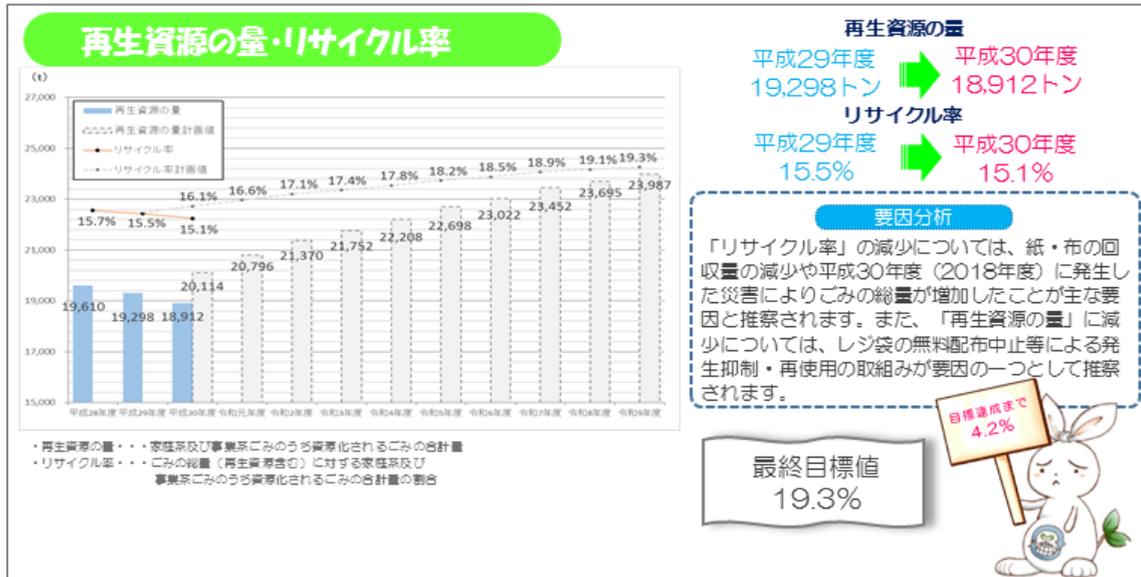
(2) 家庭系ごみ 1人1日当たり量・家庭系ごみ量



(3) 事業系ごみ量



(4) リサイクル率・再生資源の量



3. 審議会からの評価

- 今後は、「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」に基づき、可燃ごみに多く含まれる「食品ごみ」「紙ごみ」の減量などに重点的に取り組んでいくことが望まれます。
- 「家庭系ごみ量」の削減に向け、引き続き市民に対し、講座やイベント、冊子等による啓発活動及び情報発信を行うなど、ごみ減量に対する意識の向上を図る必要があります。
- 減量目標の達成に向け、事業活動に伴い排出されるごみの減量・適正処理を推進するため、ごみの減量につながる情報を発信するなどの取組みを進める必要があります。
- 廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用を推進するとともに、適正な分別排出を促進するため、ごみ分別・排出に関する広報周知活動を展開する必要があります。

4. 市民等からの意見とそれに対する市の考え方

意見	ごみの減量に関しては、市から発信される様々な情報により市民の意識が高まり、進んできていると思いますが、更なるごみの減量に向け、引続き講座やイベントでの啓発など市民等に情報発信を続けてほしい。
市の考え	市民のみなさんの更なるごみ減量に対する意識の高揚に向け、食品ロスやプラスチックごみ問題など、市のごみ処理・リサイクルの現状を勘案し、効果的な啓発活動に取り組んでいきます。また、「動画共有サイト YouTube アカウント『とよなか環境 TV』」など、ソーシャルメディアを活用した市民ニーズに合った情報発信に努めます。

意見	リサイクル率が上がることは、ほんとうに良いことだろうか（再生資源が少なくなれば、リサイクル率は小さくなる）。
市の考え	廃棄物処理・リサイクルを取り巻く状況は大きく変化しており、大量生産・大量消費・大量リサイクルによる最終処分量の削減といった廃棄物の「量」に着目した考えから市民や事業者が自らライフスタイルやビジネススタイルの再考、廃棄物から有用資源を回収し、高度な物質循環を確保することによる天然資源の消費の抑制といった「質」に着目した、循環型社会への転換が求められています。このことから現計画の目標値をリサイクル率 3.6%増加としています。しかし、まずはごみとなるようなものは出さないこと（発生抑制）で全体のごみが少なくなることが大切です。

意見	プラスチック製品は非常に便利であるが、なるべくごみとならないような代替品があれば、それらを使っていこうと思う。
市の考え	プラスチック製品は現代の生活からはなかなか切り離しにくいものとなっています。しかし、海洋汚染問題などプラスチックごみが社会的に大きな問題となっていることから、削減する必要があります。マイバッグやマイボトルを持参するなど、まずは、できることから実践していただくよう周知啓発に努めます。

意見	現状のままでは現行の計画で掲げている減量目標やリサイクル率の増加を達成することはなかなか難しいように感じました。このことから事業者としても 1人1人の意識改革が必要だと感じました。
市の考え	減量目標である「ごみの焼却処理量を約 9千トン減らす」ことは量が大きいため難しく見えますが、この減量目標は市民、事業者のみなさま一人一人が毎日ごみを約 28グラム減らすことで達成できる目標値となっています。